

決算説明会 2025年2月期 通期（第43期）

ソーバル株式会社

東京証券取引所 スタンダード
証券番号：2186

2025年4月15日
代表取締役社長

推津 敦

総スライド数：11ページ

目次

はじめに

ソーバルグループ概要

前期の総括

- 1-1 業績ハイライト
- 1-2 財政状態／キャッシュフロー
- 1-3 売上構成比 | 主要顧客
- 1-4 売上構成比 | 契約種別
- 1-5 売上／利益の推移 | セグメント

今期の展望

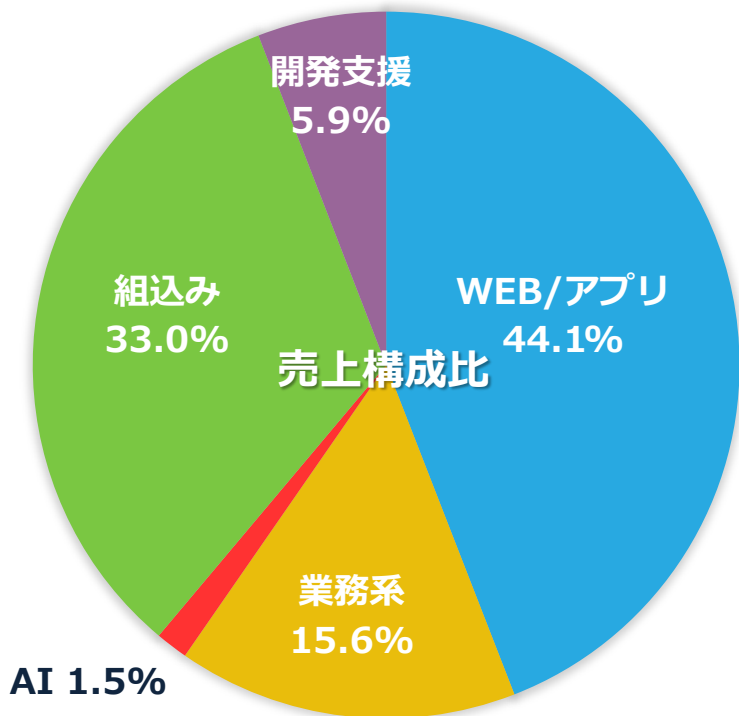
- 2-1 今期の見通しと業績予想
- 2-2 今期の見通しと業績予想 | POINT解説
- 2-3 配当予想／株主優待

ソーバルグループ概要

設立	1983年1月
資本金	2億1,426万円
売上高	86億8,254万円 (*)

本社所在地	東京都品川区
従業員数	916名 (*)
平均年齢	36.9歳

事業内容 (*)



主な開発実績

- WEB・クラウドシステム
- 企業向け業務系システム
- スマホアプリ
- デジタルカメラ・ビデオ
- 自動運転
- 医療統計解析
- 各種マニュアル制作
- AIデータ分析など

子会社

- アンドールシステムサポート株式会社
1969年11月設立 資本金9,900万円
- 株式会社コアード
1987年2月設立 資本金2,000万円

業績ハイライト

(百万円)	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期	前年同期比	予想	達成率
	実績	実績	実績			
売上高	8,159	8,169	8,682	6.3%	8,500	102.1%
営業利益	643	670	612	Δ 8.8%	600	102.0%
経常利益	657	691	645	Δ 6.6%	610	105.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	683	513	432	Δ 15.8%	580	74.5%

Point

- 利益については前年同期比割れも、売上は大幅に増加。
- 当期純利益未達要因は、出資先の株式取得価額に対する実質価額の著しい下落に伴う減損処理によるもの。

財政状態／キャッシュフロー

(百万円)	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期
総資産	5,181	5,098	5,681
純資産	3,910	4,164	4,336
自己資本比率	75.2%	81.4%	76.1%
1株当たり純資産	495円21銭	527円48銭	549円42銭
営業活動によるCF	525	95	844
投資活動によるCF	400	△ 17	270
財務活動によるCF	△262	△ 258	△ 259
現金及び現金同等物の 期末残高	3,125	2,945	3,801

Point

- 自己資本比率は高い水準を維持
- 投資活動によるCFの増加は、連結子会社アンドールシステムサポート社の
本社売却が主たる要因

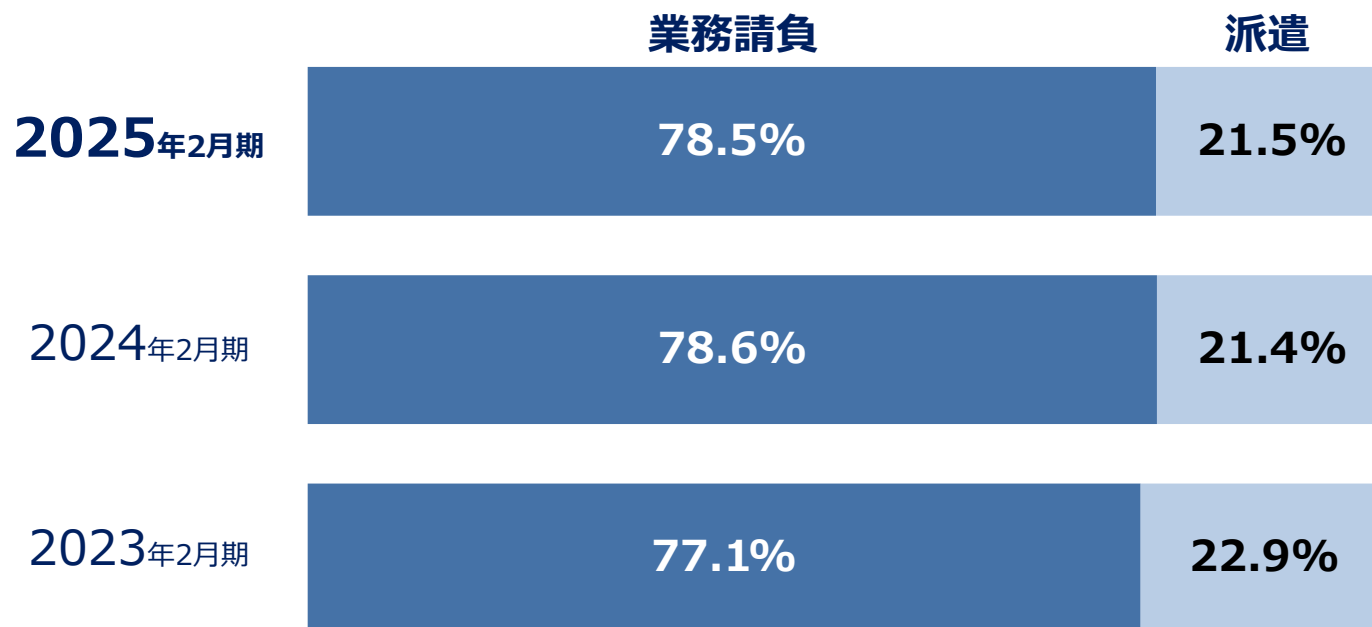
売上構成比 | 主要顧客

	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期
ソニーグループ	32.2%	31.4%	31.0%
富士通グループ	13.7%	13.6%	14.3%
キャノングループ	9.2%	9.5%	9.4%
リクルートグループ	5.2%	6.1%	6.9%
日立グループ	3.5%	3.9%	4.4%
トヨタグループ	3.0%	3.2%	2.8%
首都高速道路技術センター	2.2%	2.1%	2.1%
三菱グループ	1.4%	2.1%	2.0%
その他	29.6%	28.1%	27.1%

Point

- 上位6社は若干の増減はあるも構成順位は変動無し。
- 構成比2.0%未満もトヨタカネツ、椿本チエインが伸長。

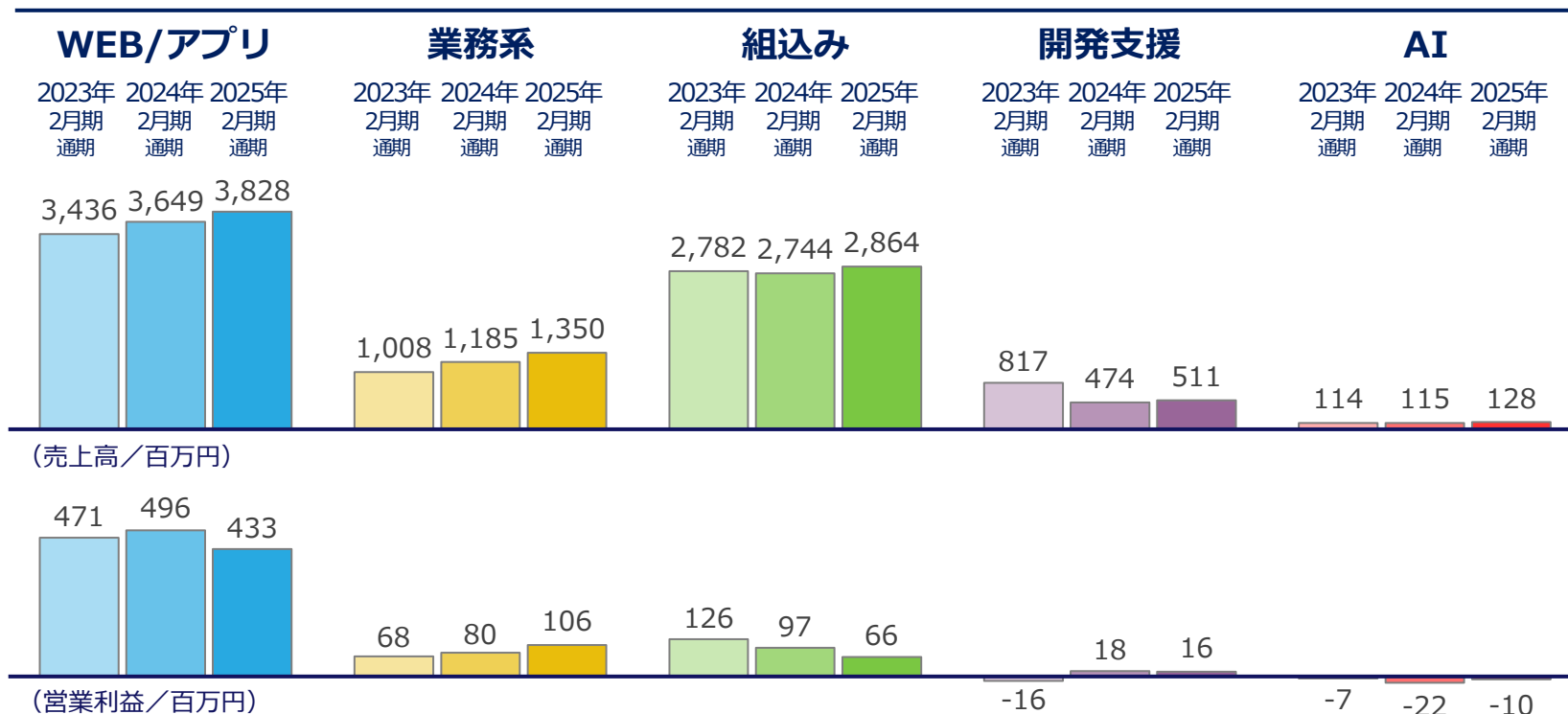
売上構成比 | 契約種別



Point

- 構成比率は適正比を維持（弊社の考える適正比は業務請負が70%～80%）
- PM・PLの育成、新卒の戦力化、パートナー活用が奏功

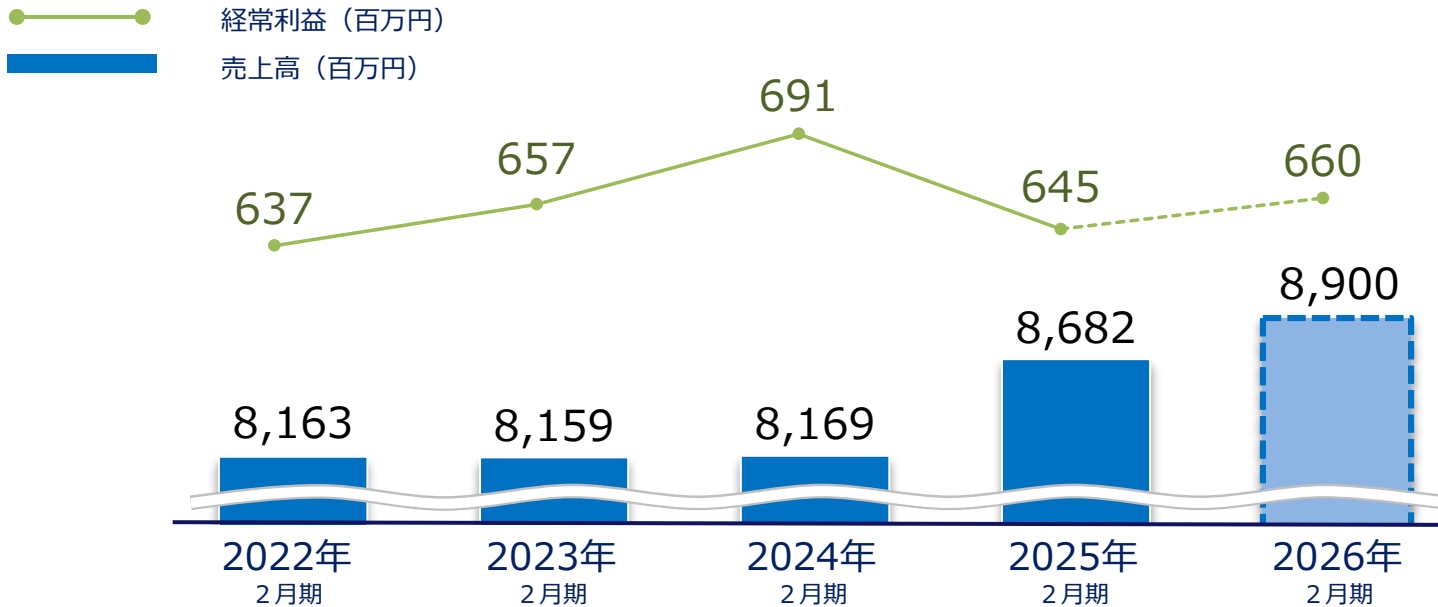
売上／利益の推移 | セグメント



Point

- WEB/アプリは、新規顧客開拓に伴い利益率の低いPJが増加し利益を圧迫したが売上は伸長。
- 業務系は、人件費の増加を補っての増収増益。
- 組込みは、新卒の教育ならびにアサインが奏功し売上を伸ばす。
- 開発支援は、業務効率改善により売上を伸ばす。
- AIは、PoCフェーズから本格案件への移行が課題。引き合いは多い。

今期の見通しと業績予想



テーマ

中期経営計画達成後を見据えた人材育成

Point

- 契約単価の改定、ビジネスパートナーの活用、退職者の抑制により売上高は順調に増加。
- 前年に引き続き積極的なベースアップ実施等で人件費が増加し、利益は微増。

1 2027年2月期（来期）の売上高100億に向けて

↑増収要因

- 引き続き市況は堅調で、人材の育成や業務ローテーションも順調
- 人件費見直し等の効果もあり、退職率は低い状態

↑増益要因

- 契約単価の見直し、稼働率の向上
- 社員のスキルアップによる生産性の向上

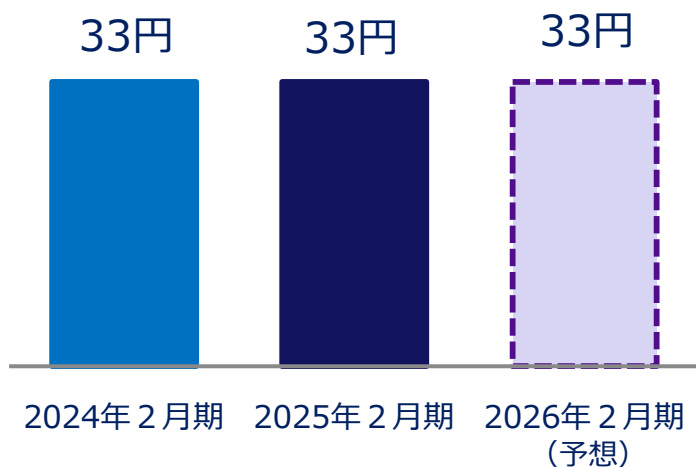


- 優れたエンジニアをより高難易度（高単価）の案件に活用すること、付加価値の高い案件の獲得強化により、さらなる収益増加を目指す。
- また、安定的かつ持続的な賃上げを実現するために、引き続き生産性の向上と、人材価値の向上に取り組む。
- 2027年2月期（来期）が中期経営計画の最終年度となるため、今期予想89億を必達するとともに、計画目標の100億の実現へ向けた取り組みを行う。

中期経営計画2年目で、売上規模10億円の品質評価事業を譲渡。
この時、100億目標を下方修正せず、あえて挑戦し現在に至ります。

配当予想・株主優待

	一株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
2026年2月期（予想）	16円50銭	16円50銭	33円00銭
2025年2月期	16円50銭	16円50銭	33円00銭
2024年2月期	16円50銭	16円50銭	33円00銭



Point

- 配当は前期と同額に据え置き。
- 配当性向は59.0%

株主優待制度

対象	優待内容
1単元以上 10単元未満	500円相当QUOカード
10単元以上	2,000円相当QUOカード